

インドの言語事情

—— 通じる英語の重要性

国立研究開発法人 科学技術振興機構

インド代表 西川裕治

多種多様な言語のおふれる国

インドの言語としてヒンディー語は知られているが、その他のローカル言語はあまり知られていない。ウィキペディアによると、500万人以上が話す言葉だけでも26言語もある。さらに、「母語として話される言語は(方言を含め)1683あり、そのうち850言語が日常の社会生活で使用されている」と書かれている。ちなみにインドの公用語はヒンディー語で、準公用語が英語。その他にも憲法で定められた指定言語がサンスクリット語を含めて22もある。まさに言語の迷宮。

下表のリストの、上から数えてパンジャブ語

表：インドの言語

	言語	使用人口
1	ヒンディー語	2億5800万人
2	ベンガル語	8250万人
3	テルグ語	7380万人
4	マラーティー語	7170万人
5	タミル語	6070万人
6	ウルドゥー語	5150万人
7	グジャラート語	4570万人
8	パンジャブ語	3780万人
9	ポージュプリー語	3780万人
10	カンナダ語	3770万人
11	マラヤーラム語	3300万人
12	オリヤー語	3210万人
13	マイティリー語	3000万人
14	マガヒー語	1400万人
15	チャッティースガリー語	1330万人
16	アッサム語	1280万人
17	ダッキニー語	1280万人
18	カナウジ語	950万人
19	ハリヤーンウィー語	800万人
20	ヴァルハディ=ナーグプリー語	697万人
21	サンタル語	594万人
22	マールワリー語(インド)	560万人
23	マールヴィー語	556万人
24	カシミール語	536万人
25	メワール語	510万人
26	ランプリ語	500万人

くらいまでは知っていても、それ以降の言語を知っていたら相当なインド・オタクである。

5月号でインド紙幣の表示言語が15と紹介したが、ネットには、紙幣(写真)裏の左枠内に15、枠外にヒンディーと英語があり合計17とする説もある。さらに19(枠内の1と15段目にそれぞれ2言語があり枠内外の合計は19)と主張するサイトもあり混乱する。真偽を確かめるべくインド人に聞いたところ、当然だが全ての言語を読める人は皆無。「日本人は細かいことを気にし過ぎ」と言われた。インドでは「15マイル行けば方言が、25マイルでカレーの味が、100マイルで言葉が変わる」と言われるが、さもありません。

聞き取りにくい英語の大国

インド人は英語ができるといわれているが、一説によると人口の10%、約1億2500万人(片言を含めると3億人)が英語を話すらしく、米国に次いで世界第2位の英語大国である。インドは多民族国家なので最大多数のヒンディー語だけに限定すると他民族から反発が出る。そこで中立的な外国語である英語を実質的な共通語とすることで摩擦を避けているとの説が有力である。

インドでは英語が使えると良い職に就け給料も確実に高くなり、海外留学・就労も可能となる。逆に英語が話せないと、まともな仕事には就きにくい。その結果、昨今のインドでは英語熱が非常に高く英語学校も多い。過去20年で英語人口が10倍に増えたとか、2020年頃には米国を抜いて世界一の英語大国になるという話もあるほどだ。

インド英語が聞き取りにくいのは有名な話だ。その理由は簡単で①マシガントーク、②独特の